



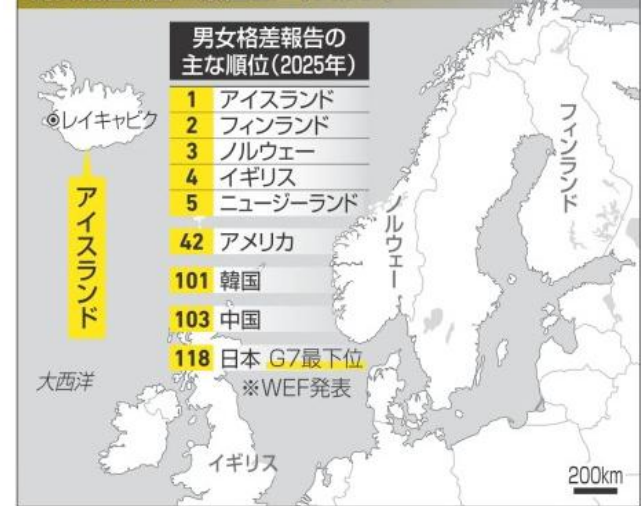
アイスランドの首都レイキャビクで「女性の休日」を記念し行進する人々＝10月24日（共同）

北欧の島国アイスランドで1975年、女性たちが男女平等を求める行動を起こしました。「女性の休日」と呼ばれるその行動から50年後の今年10月24日、首都レイキャビ



アイスランド「女性の休日」

男女格差報告の順位とアイスランド



クで5万人以上が参加した大きな集會が開かれ、参加者らは「だれもが生きやすい社会を目指す」とちかいました。「女性の休日」に女性たちがしたのは、仕事や家事をみんなでもやることです。食事もやそうじなど家の仕事を男性よりも多くしているのに自分の意見が通らなかつたり、同じ仕事をして受ける

差が少ない国であるという結果が出ています。「女性の休日」をきっかけに政治に働きかけ、男女の賃金格差を禁止する法律ができました。女性大統領も誕生し、世界で初めて民主的に女性の国家元首を選び出したのです。女性で2人目となる今のトーマスドッティル大統領は交流サイト（SNS）で50年をむかえたことを祝い「勇氣と能力、意志があれば何でもできる」と呼びかけました。

母親が50年前に「女性の休日」に参加したというプリンティス・マシユテンシュトデフさん45は「道を切り開いた先人の女性たちがいるから、今の私たちがあつたと語りました。」

左の記事を読んで、下の問いに答えましょう。

1 1975年、アイスランドの「女性の休日」に女性たちは何をしましたか。また、何のためにそんなことをしましたか。解答欄に合わせて、本文中から適語を抜き出して入れましょう。

--	--	--	--

を求めて、

--	--	--	--	--

をみんなでやめた。

2 「女性の休日」の結果、アイスランドはどんな国になりましたか。解答欄に合わせて、本文中から10字で抜き出しましょう。

世界で最も

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

になった。

3 男女格差報告の順位で、日本、ニュージーランド、中国、アメリカを、順位の高い順（男女の差がない順）に並べましょう。

1	2	3	4
---	---	---	---

NIEワークシートのこたえ（2025年12月16日公開）

◆ワークシート「アイスランド女性の日(社会)」
2025.12.14付 朝刊 20面 解答

- 1 男女平等 仕事や家事
- 2 男女の格差が少ない国
- 3 ニュージーランド アメリカ 中国 日本